

試験研究の背景と方向

1 長野県の農業分野における試験研究を取り巻く現状と課題

農業関係試験場は、水稻・麦・大豆等の穀物やりんごを始めとした果樹・野菜・花き等の園芸作物、畜産、飼料作物等の新品種の育成、省力・低コスト生産や高品質・安定生産のための高度で革新的な技術の開発等により農業振興に貢献してきました。しかし、近年は担い手の減少、生産者の高齢化が一段と進んでいるほか、流通、消費においても形態の多様化、業務需要の増加などに対し新たな対応が求められています。また、開発技術や新品種の知的財産権の保護・利活用、地球温暖化への対応など新たな課題に対する試験研究への要請が高まっています。

一方、試験場が開発した技術を早期に普及、定着させることは、ますます重要となっており、試験研究と普及活動の連携により適切な課題選定、迅速な技術開発などを効率的に進める必要があります。

加えて、時代の変化や生産現場の要望に的確に対応し、将来にわたって先端レベルの技術開発力を発揮できるよう、試験研究環境の整備を進めるとともに、国立研究開発法人・大学・他県試験研究機関・民間等との連携による研究を進める必要があります。

令和元年度は、「第3期食と農業農村振興計画」、農業関係試験場の試験研究の指針となる「長野県農業関係試験研究推進計画（農業技術ステップアッププログラム）」の2年目となる年です。農業関係試験場では、この農業技術ステップアッププログラムにおいて、平成30年度から令和4年度までの5年間のうちに開発する技術目標を掲げ、その達成に向けて取組を進めます。

2 令和元年度農業関係試験研究の推進について

(1) 長野県農業関係試験研究推進計画

試験研究の展開方向（97 課題）

I 日本をリードする研究力を活かした信州農業を革新する新品種・新技術の開発（35 課題）

- 1 魅力あるオリジナル品種の開発
- 2 環境への負荷を軽減できる技術の開発
- 3 多分野と連携した先端的な農業技術の開発
- 4 温暖化に適応するための技術開発

II 生産現場の課題を解決するための技術開発（62 課題）

- 1 安定生産のための品種改良・技術開発
- 2 低コスト・省力化・軽労化のための技術開発

(2) 試験研究要望事項

ア 平成30年度農業関係試験研究に対する要望・提案事項*の内容

稲・麦 雑穀	果樹	野菜・花き 菌茸・特作	畜産 飼料作物	土壌肥料	病虫 (鳥獣害含む)	その他	アイディア	計
22件	15件	31件	30件	4件	33件	4件	6件	145件

*要望・提案事項：県、市町村、関係団体をはじめ県内の個人、法人から要望・提案事項を収集

イ 平成30年度要望事項への対応

・普及に移したものや試験成績等、既往の成果を活用できるもの	3
・現在、試験を実施中のもの	49
・試験の実施を予定しているもの	31
・近い将来の試験実施を含め継続して試験着手を検討するもの	26
・近年中に試験の実施が見込めないもの	18
・普及センター等現地での対応が適当なものや、 他県等の成績を活用できるもの	18

ウ 年度別要望事項件数の推移

年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
件数	82	101	72	78	97	131	108	127	213	155	145

(3) 令和元年度試験研究予算

令和元年度農業関係試験場当初予算額

(単位：千円)

*1：「イノベーション創出強化研究推進事業（イノベ事業）」、「戦略的プロジェクト研究推進事業（戦略的プロ）」、「革新的技術開発・緊急展開事業（革新展開）」、「信州農業を革新する技術開発・実用化推進事業（多分野連携研究）」及び「その他」を含む。

*2：民間受託（植物防疫協会・農林研究財団含む）

	研究費の課題別区分								
	運営費	整備 事業費	研究費	研究 推進費	高度化 等開発 研究*1	県単プ ロジェ クト試 験研究	新資材 試験等 協力研 究*2	素材開 発研究	合計
令和元年度 予算額 A	178,447	11,038	367,655	9,408	154,729	36,860	56,694	109,964	557,147
平成30年度 予算額 B	112,103	10,724	374,340	12,096	162,038	34,378	57,223	108,605	497,167
前年対比 A/B(%)	159.2	102.9	98.2	77.8	95.5	107.2	99.1	101.3	112.1

(4) 令和元年度計画

